

平成 22 年度  
北九州市高齢者等実態調査  
報告書

<抜粋>

- 要約 P1~12
- 健康・医療について  
P24~25 (健康状態)  
P33~41 (介護予防)
- 生きがい・社会参加について  
P48~55
- 高齢者福祉施策について  
P123~125

平成 23 年 3 月  
北九州市保健福祉局

# 平成 22 年度 北九州市高齢者実態調査（要約）

## 調査の概要

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関する意識や新たなニーズを把握することで、今後の高齢社会対策を進めるうえでの基礎的な資料とするため、調査を行ったもの。

### 調査の概要

|         | 対象  | 対象数   | 回答数   | 回収率   |
|---------|---|-------|-------|-------|
| 一般高齢者   | 65歳以上の方で下記の「在宅高齢者」「施設入所高齢者」に該当しない方        | 3,000 | 1,893 | 63.1% |
| 在宅高齢者   | 介護保険の要支援・要介護の認定を受けている65歳以上の方              | 3,600 | 1,745 | 48.5% |
| 若年者     | 40歳～64歳の方                                 | 3,000 | 1,595 | 53.2% |
| 施設入所高齢者 | 北九州市内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設に入所している方 | 600   | 245   | 40.8% |

注1) いずれの対象者も市内に在住している方から無作為に抽出

注2) 一般高齢者、在宅高齢者、若年者は郵送法による配布・回収。施設入所高齢者は訪問面接による聞き取り調査

注3) 調査実施期間は平成22年8月20日～平成22年9月30日

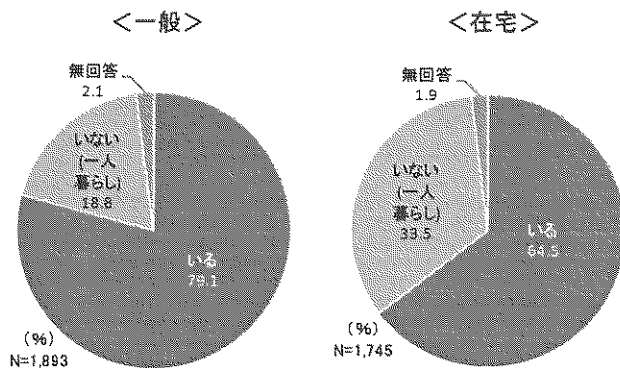
注4) 要約の中で、「一般」とあるのは一般高齢者、「在宅」とあるのは在宅高齢者、「若年」とあるのは若年者、「施設」とあるのは施設入所高齢者を指す。

## 1. 高齢者のおかれている状況

### (1) 同居人の有無

一般高齢者の8割、在宅高齢者の6割は同居人が「いる」

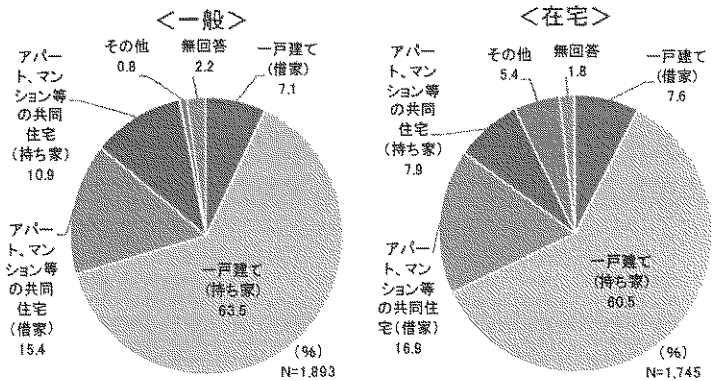
同居人の有無については、「いる」と答えた方は「一般」で79.1%、「在宅」で64.5%となっている。



## (2) 住居の形態

### 6割の高齢者は「一戸建て(持ち家)」に居住

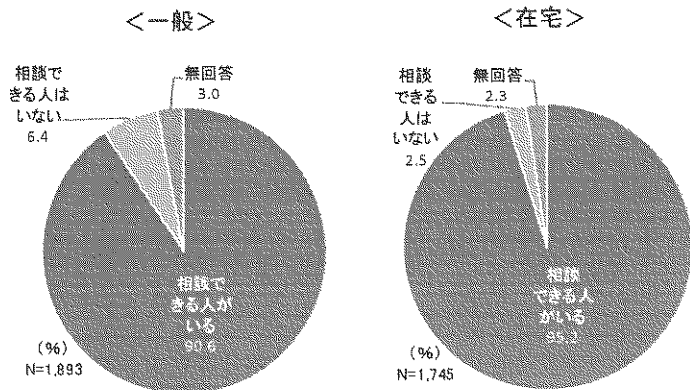
住居の形態は、「一戸建て(持ち家)」は「一般」で63.5%、「在宅」で60.5%となっている。借家・持ち家あわせた「アパート、マンション等の共同住宅」は「一般」で26.3%、「在宅」で24.8%となっている。



## (3) 相談できる人の存在

### 9割以上の高齢者は相談できる相手が「いる」

介護や病気のことなどで困ったときに、相談できる人がいるかどうかについて尋ねたところ、「一般」で90.6%、「在宅」では95.2%が「いる」と回答している。

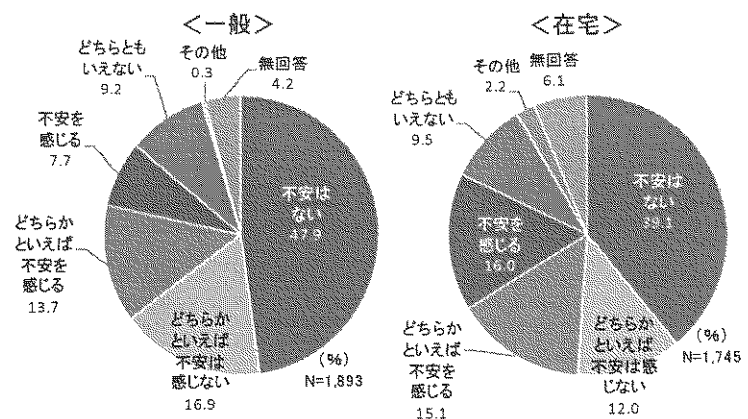


## (4) 孤立化への不安

### 一般高齢者の2割、在宅高齢者の3割が孤立化への不安を「感じる」

自分自身が「孤立」するかもしれないという不安に関しては、「不安はない」「どちらかといえば不安は感じない」と答えた人は「一般」で64.8%、「在宅」で51.1%となっている。

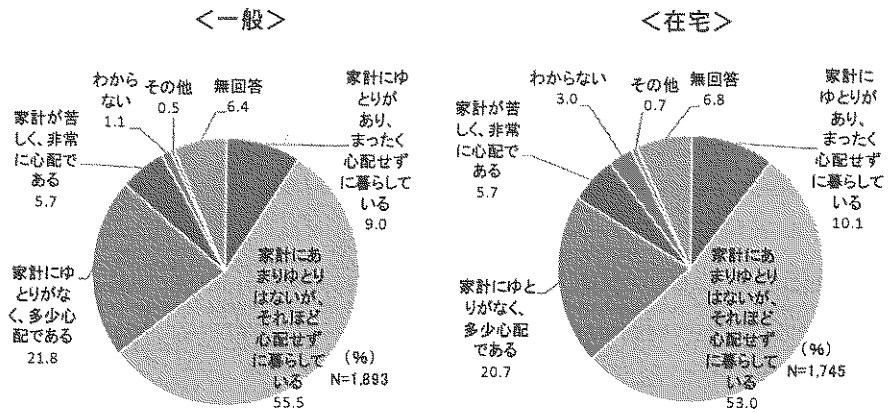
「どちらかといえば不安を感じる」「不安を感じる」と答えた人は、「一般」で21.4%に対し、「在宅」で31.1%となっている。



**(5) 暮らし向き**

**約半数の高齢者がゆとりはないものの心配せずに生活**

暮らし向きに関しては、「家計にあまりゆとりはないが、それほど心配せずに暮らしている」がいずれにおいても最も多く、「一般」で55.5%、「在宅」で53.0%となっている。

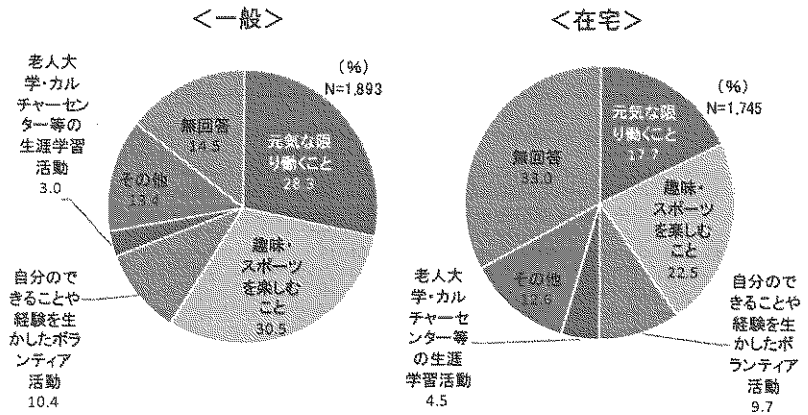


**2. 高齢者の社会参加について**

**(1) 高齢者の望ましい社会参加活動**

**「趣味・スポーツ」が最も多い**

望ましいと考える高齢者の社会参加活動について尋ねたところ、「趣味・スポーツを楽しむこと」が「一般」で30.5%、「在宅」で22.5%と最も多く、次いで「元気な限り働くこと」が「一般」で28.3%、「在宅」で17.7%となっている。

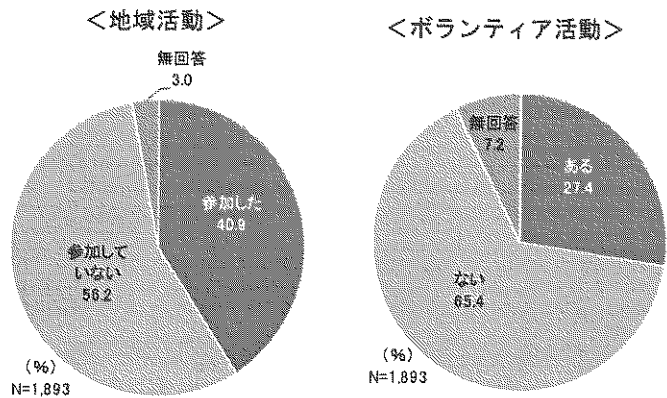


**(2) ボランティア・地域活動の状況**

**一般高齢者の地域活動は4割、ボランティアは3割弱の参加経験**

「一般」の人で、この1年間に、自治会や町内会、婦人会、まちづくり協議会、老人クラブなどの地域活動に「参加した」人は40.9%であり「参加していない」人は56.2%であった。

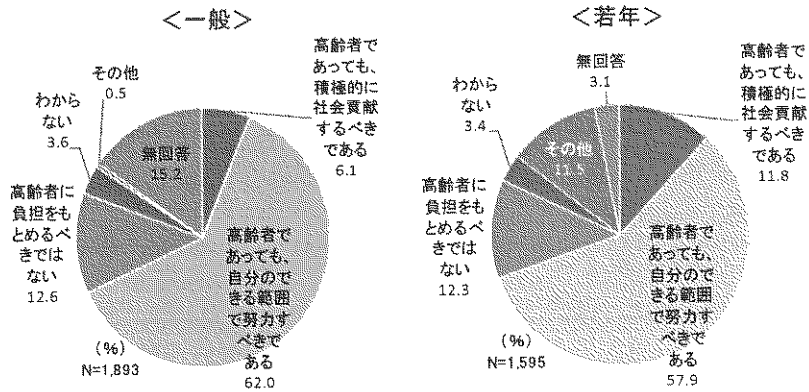
また、ボランティア活動に参加したことが「ある」人は27.4%に対し、参加したことが「ない」人は65.4%であった。



### (3) 高齢者の社会貢献について

#### 6割の一般高齢者が「自分できる範囲で努力すべき」

今後の高齢社会を支えていくため、高齢者自身どのようにすべきか尋ねたところ、「高齢者であっても、自分のできる範囲で努力すべきである」が最も多く、「一般」で62.0%、「若年」で57.9%となっている。

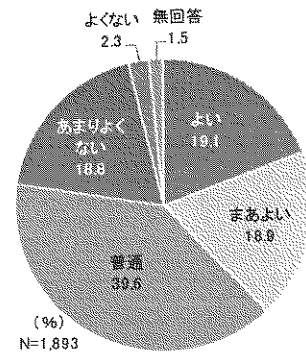


### 3. 健康づくり・介護予防について

#### (1) 健康状態

#### 8割の一般高齢者は「普通」以上

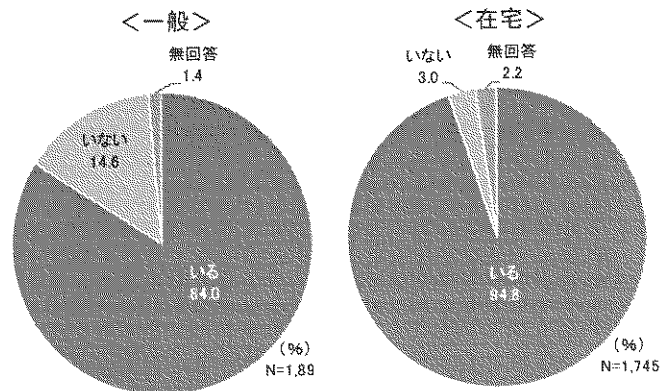
自分自身の健康状態をどう思うか尋ねたところ、「一般」では「普通」が39.6%と最も多い。「よい」、「まあよい」を合わせると、8割弱の人が自身の健康状態を普通以上と感じている。



#### (2) かかりつけ医の有無

#### 一般高齢者の8割、在宅高齢者の9割がかかりつけ医を「決めている」

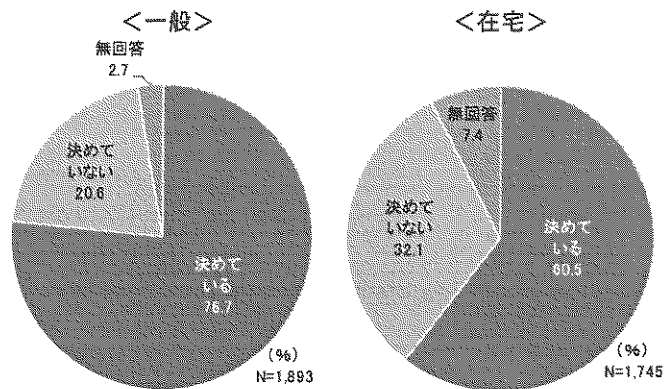
かかりつけ医の有無を見ると、「決めている」方は「一般」で84.0%、「在宅」で94.8%となっている。



**(3) かかりつけ歯科医の有無**

一般高齢者の8割弱、在宅高齢者の6割がかかりつけ歯科医を「決めている」

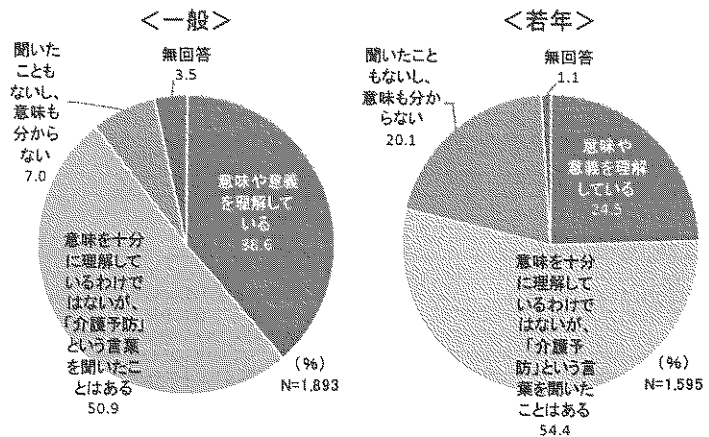
かかりつけ歯科医の有無を見ると、「決めている」方は「一般」で76.7%、「在宅」で60.5%となっている。



**(4) 介護予防の認知度**

高齢者の9割が介護予防の意味を聞いたことがある・理解していると回答

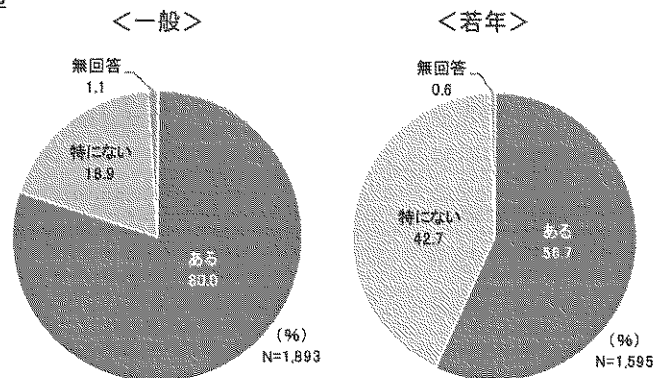
介護予防という言葉や意義についての認知度は、「理解している」が「一般」で38.6%、「若年」で24.5%であった。「聞いたことはある」は「一般」で50.9%、「若年」で54.4%であり、2つを合わせた割合は「一般」で89.5%、「若年」で78.9%となっている。



**(5) 介護予防の取り組み状況**

高齢者の8割が介護予防の取り組みを実施

介護予防のために取り組んでいることがあるかどうか尋ねたところ、「ある」が「一般」で80.0%、「若年」で56.7%となっている。

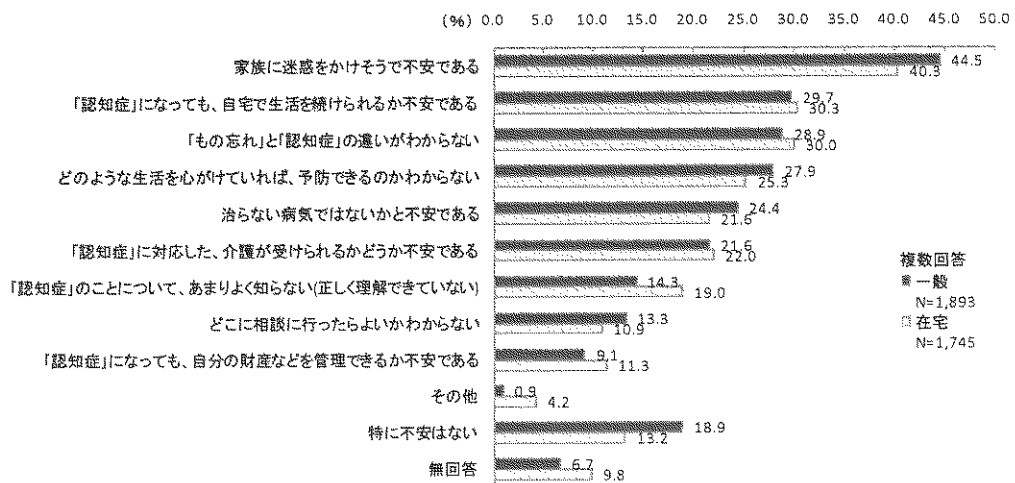


## 4. 認知症・権利侵害について

### (1) 認知症に対する不安

#### 家族に迷惑をかけそうなのが最大の不安

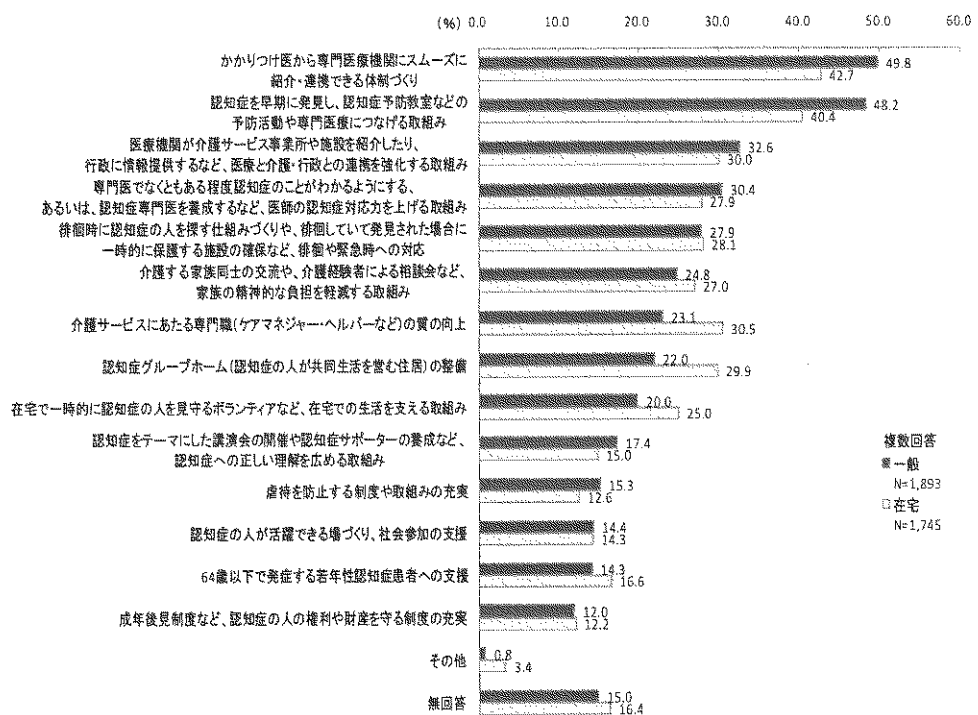
認知症について不安に感じること、  
「家族に迷惑をかけそう  
不安である」が「一般」で  
44.5%、「在宅」で  
40.3%と、  
いずれにおいても最も多  
かった。



### (2) 認知症対策として力を入れるべき施策

#### 連携体制づくり、認知症予防の取り組みが上位

認知症対策として力を入れるべき  
施策については、  
「かかりつけ医から専門医療機関に  
スムーズに紹介・  
連絡できる体制づ  
くり」が「一般」  
で49.8%、「在宅」  
で42.7%と最も  
多く、「認知症を早  
期に発見し、認知  
症予防教室など予  
防活動や専門医療  
につなげる取組み」  
は「一般」で  
48.2%、「在宅」で  
40.4%となっている。

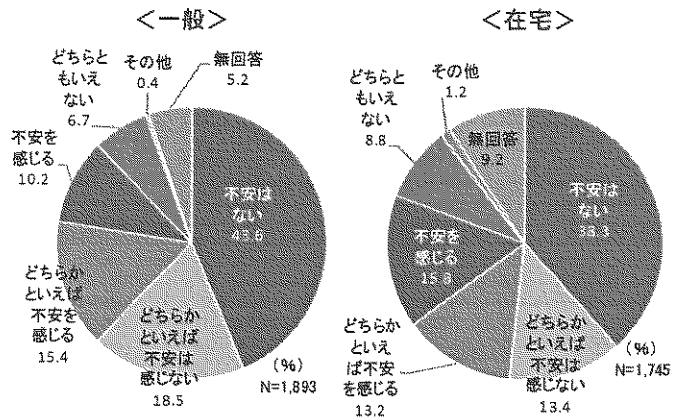


### (3) 権利侵害への不安

#### 不安を感じている高齢者は3割弱

詐欺など権利侵害に対しては、「不安はない」「どちらかといえば不安を感じない」を合わせた割合は、「一般」で62.1%、「在宅」で51.7%となっている。

また、「不安を感じる」「どちらかといえば不安を感じる」を合わせた割合は「一般」で25.6%、「在宅」で29.0%となっている。

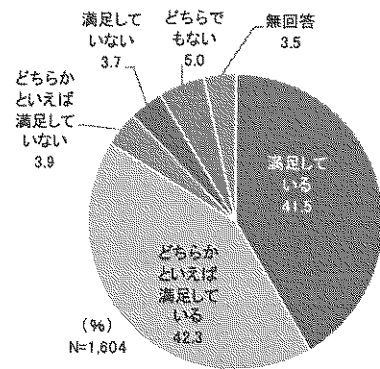


## 5. 介護保険について

### (1) 介護保険サービスの利用の満足度

#### 8割が介護サービスの利用に満足を感じている

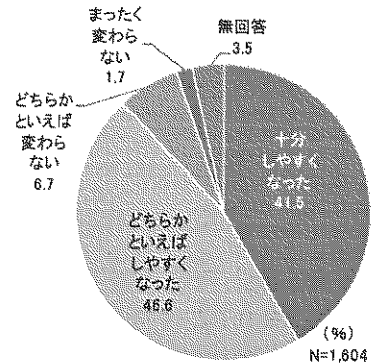
介護保険サービスを利用したことのある「在宅」に利用したサービスの内容に満足しているか尋ねたところ、「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合わせた割合は83.8%であった。



### (2) サービス利用による生活利便の変化

#### 9割近くが生活改善の効果を感じている

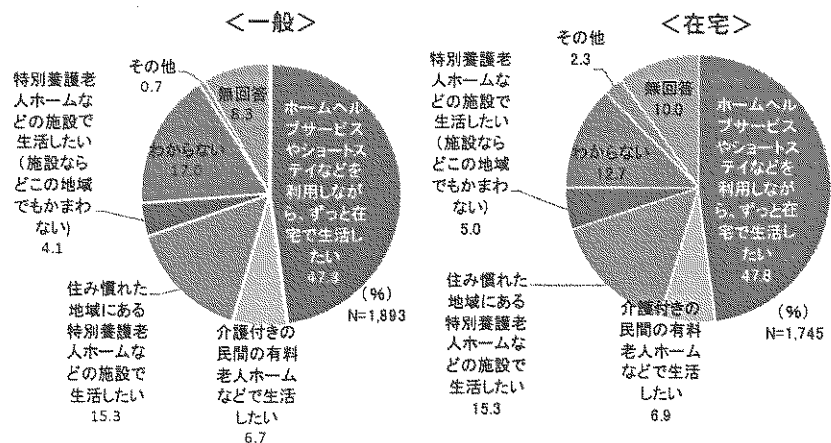
介護サービスの利用によって生活がしやすくなったかどうかを尋ねたところ、「十分しやすくなった」、「どちらかといえばしやすくなった」を合わせた割合は88.1%であった。



### (3) 介護が必要な状態になったときに希望する生活場所

#### 約半数が在宅を希望

介護が必要な状態(在宅の場合はより介護が必要な状態)になったときに希望する生活場所を尋ねたところ、「ずっと在宅で生活したい」が「一般」、「在宅」とともに47.8%となっている。

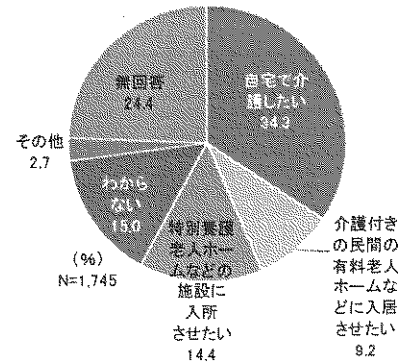




**(4) 今後の希望する介護のあり方** ※在宅高齢者を介護している人が対象

**介護者も在宅介護を希望**

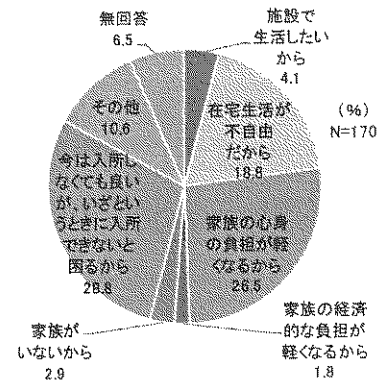
介護している人に今後の介護のあり方に対する希望を尋ねたところ、「自宅で介護したい」と考えている人が34.3%で最も多くなっている。続いて「特別養護老人ホームなどの施設に入所させたい」が14.4%、「介護付きの民間有料老人ホームなどに入居させたい」が9.2%となっている。



**(5) 施設への申込みをした理由**

**いざというときのためと家族の心身の負担軽減のため**

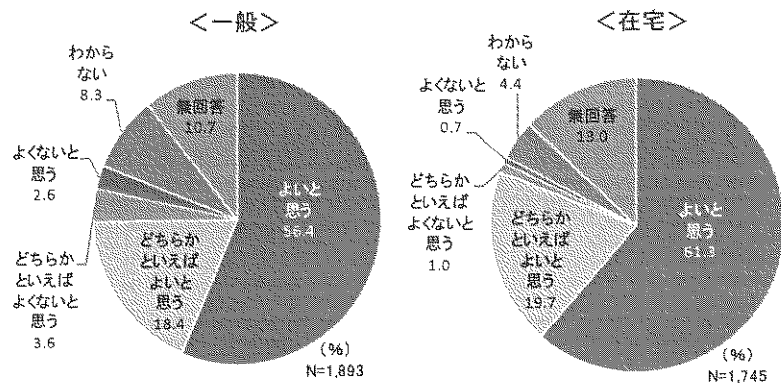
施設への入所申込みをしている方に対して、申込みをした理由を尋ねたところ、「今は入所しなくても良いが、いざというときに入所できないと困るから」が28.8%、「家族の心身の負担が軽くなるから」が26.5%となっている。



**(6) 介護保険制度の評価**

一般高齢者の7割、在宅高齢者の8割が肯定的な評価をしている

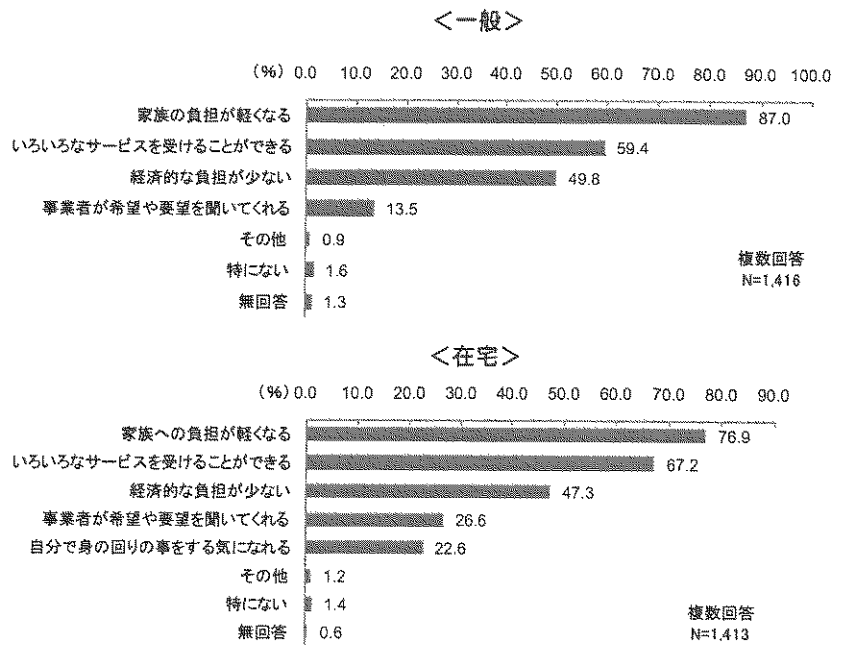
介護保険制度に対してどう思うかという質問に対しては、「よいと思う」が「一般」で56.4%、「在宅」で61.3%となっている。「どちらかといえばよいと思う」と合わせると、「一般」で74.8%、「在宅」で81.0%が肯定的な評価をしている。



**(7) 介護保険サービスの良い点**

**「家族の負担が軽くなる」が最も多い**

介護保険制度について「よいと思う」、「どちらかといえばよいと思う」と回答した方に対し、介護保険制度のよいと思う点について尋ねたところ、「家族の負担が軽くなる」が「一般」で87.0%、「在宅」で76.9%で最も多く、続いて「いろいろなサービスを受けることができる」が「一般」で59.4%、「在宅」で67.2%、「経済的な負担が少ない」が「一般」で49.8%、「在宅」で47.3%となっている。

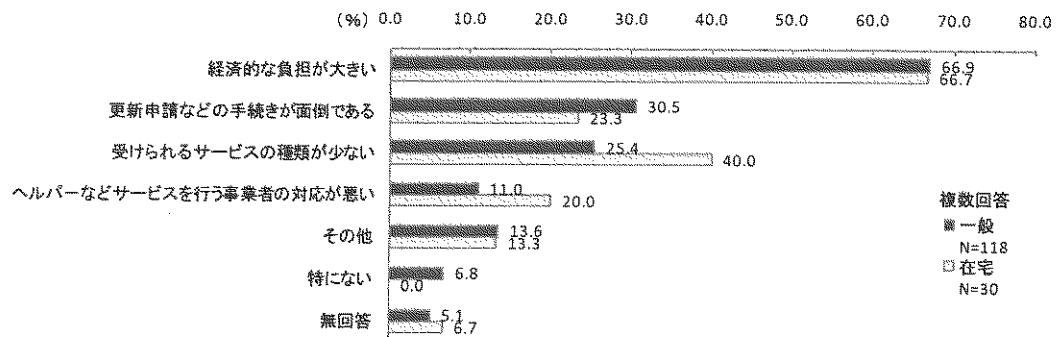


**(8) 介護保険サービスの悪い点**

**「経済的な負担が大きい」が最も多い**

介護保険制度について「よくないと思う」、「どちらかといえばよくないと思う」と回答した方

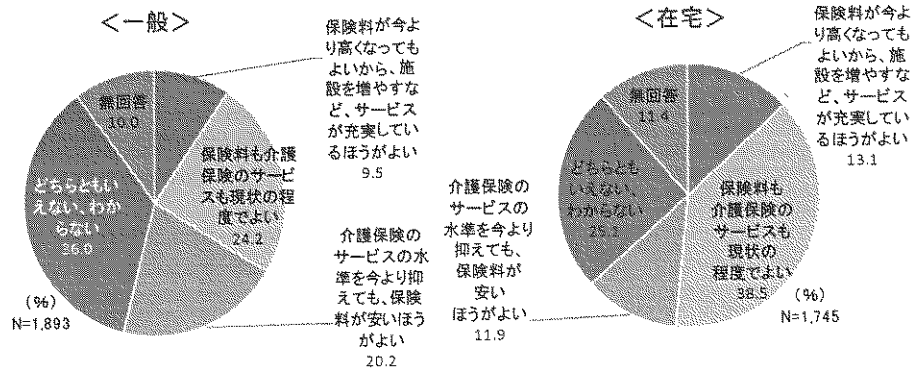
に対し、介護保険制度のよくないと思う点について尋ねたところ、「経済的な負担が大きい」が「一般」で66.9%、「在宅」で66.7%と最も多かった。また、「一般」では「更新申請などの手続きが面倒である」30.5%、「在宅」では「受けられるサービスの種類が少ない」40.0%で2番目となっている。



**(9) 介護保険サービスと保険料の関係**

**保険料も介護保険のサービスも現状の程度でよいと考えている高齢者が多い**

介護保険サービスと保険料の関係に対しては、「無回答」や「わからない」を除くと、「保険料も介護保険のサービスも現状の程度でよい」が「一般」24.2%、「在



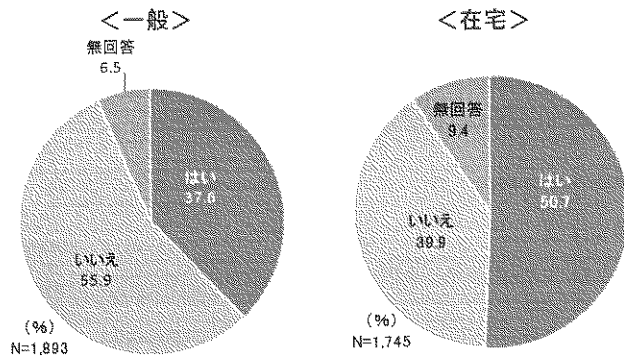
宅」38.5%で最も多かった。また、「一般」では「介護保険のサービスの水準を今より抑えても、保険料が安いほうがよい」が20.2%、「在宅」では「保険料が今より高くなってもよいから、施設を増やすなど、サービスが充実しているほうがよい」13.1%で2番目となっている。

**6. 地域包括支援センターについて**

**(1) 地域包括支援センターの認知度**

**在宅高齢者の5割が「知っている」**

地域包括支援センターについては、「知っている」が、「一般」で37.6%、「在宅」で50.7%となっている。

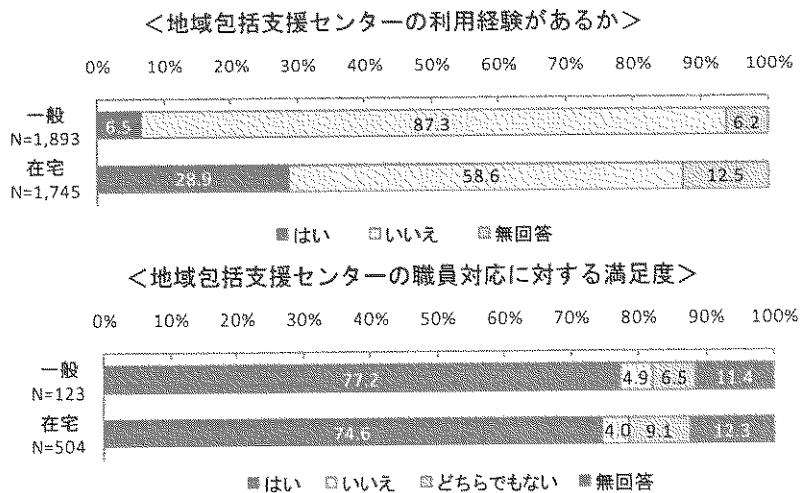


**(2) 地域包括支援センターの利用経験・利用時の満足度**

**利用経験がある高齢者の7割が満足**

地域包括支援センターの利用経験がある方は、「在宅」では28.9%であったが、「一般」では6.5%であった。

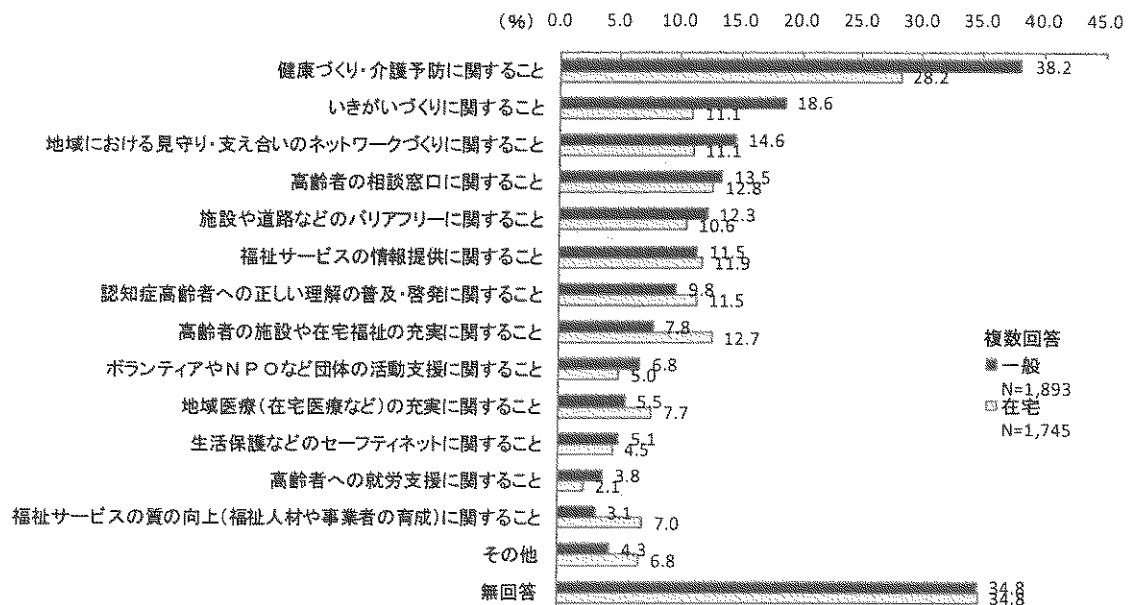
利用経験者に利用時の職員対応について満足したかを尋ねたところ、「はい」が「一般」で77.2%、「在宅」で74.6%となっている。



## 7. 高齢者施策の重点施策

### (1) 充実してきた施策

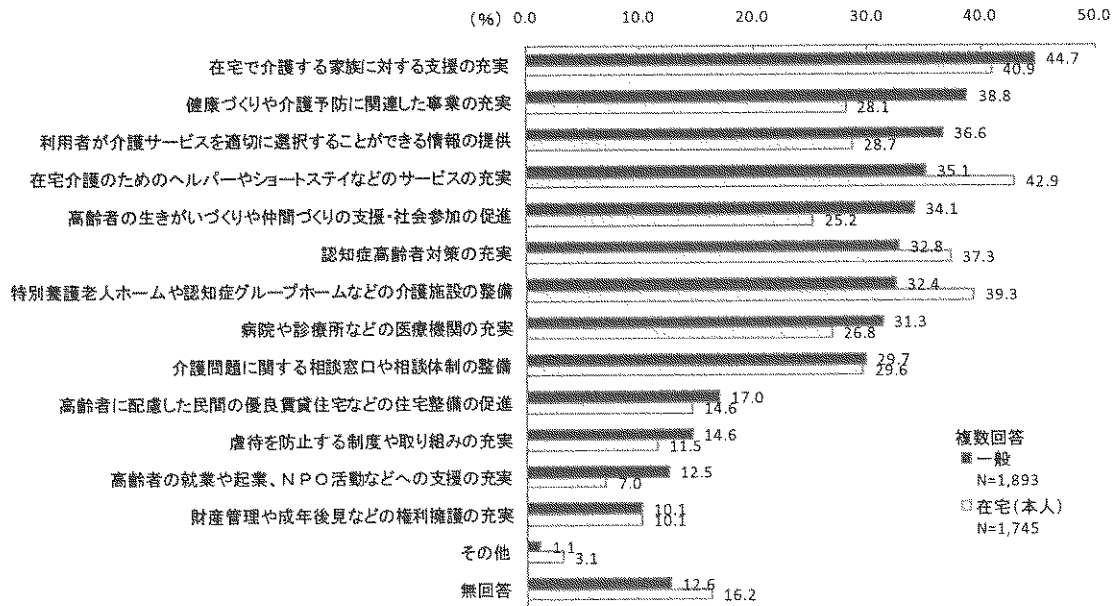
一般、在宅ともに「健康づくり・介護予防に関すること」が最も多い



北九州市の高齢者施策で充実してきたと思うものについて尋ねたところ、「健康づくり・介護予防に関すること」が最も多く、「一般」で38.2%、「在宅」で28.2%となっている。

## (2) 力を入れるべき施策

一般では「家族に対する支援の充実」、在宅では「在宅介護のためのサービスの充実」が上位



北九州市が今後力を入れるべき施策について尋ねたところ、「一般」では、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が44.7%で最も多い。次いで「健康づくりや介護予防に関連した事業の充実」が38.8%、「利用者が介護サービスを適切に選択することができる情報の提供」が36.6%となっている。「在宅」では、「在宅介護のためのヘルパーやショートステイなどのサービスの充実」が42.9%で最も多い。次いで、「在宅で介護する家族に対する支援の充実」が40.9%、「特別養護老人ホームや認知症グループホームなどの介護施設の整備」が39.3%となっている。

### 第3章 共通設問の調査結果

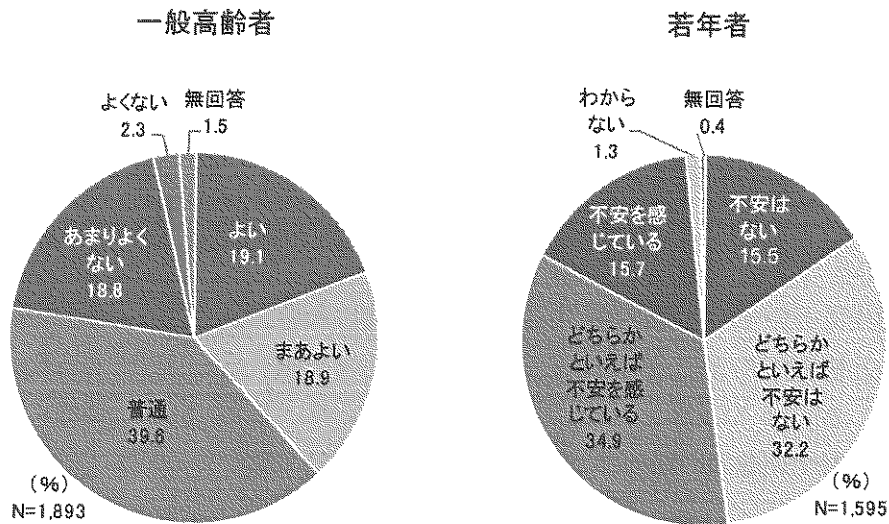
#### 1. 健康・医療について

##### (1) 健康状態

対象：『一般高齢者』、『若年者』

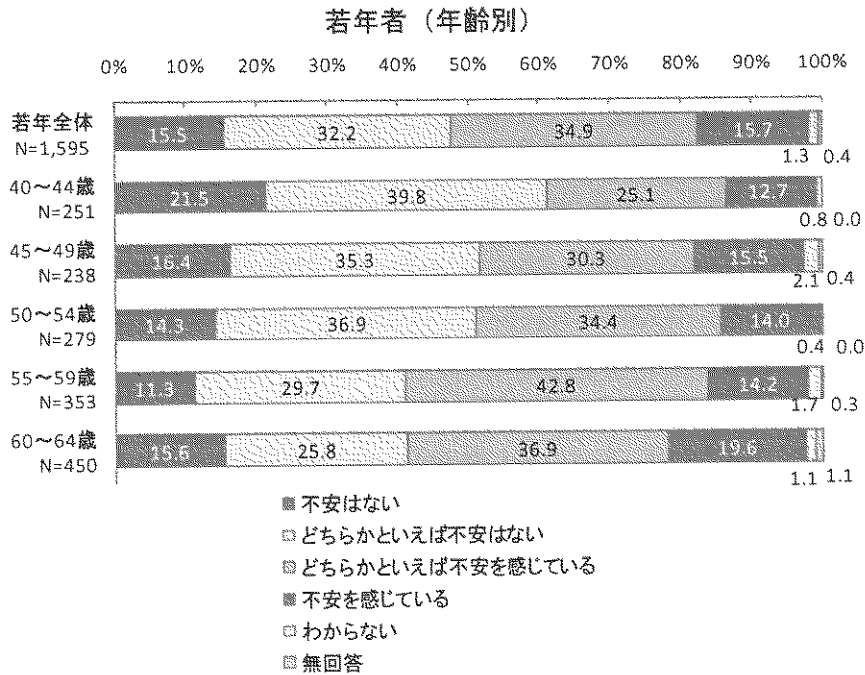
一般高齢者では、「普通」が39.6%と最も多い。次いで「よい」が19.1%、「まあよい」が18.9%、「あまりよくない」が18.8%となっている。普通以上と感じている人の割合は、77.6%となっている。

若年者では、一般高齢者と選択肢の文言が若干異なるため、一般高齢者の結果との比較は難しいが、現在の健康状態について「不安はない」または「どちらかといえば不安はない」と答えた人は47.7%に対し、「不安を感じている」または「どちらかといえば不安を感じている」は50.6%となっている。前回調査と比べると、現在の健康状態について何らかの不安を感じている人の割合は、9.7ポイント減少している。



【調査対象属性別特徴】

若年者の年齢別にみると、年齢が高いほど不安が高い傾向にある。



(1) - 1 将来の健康不安

対象：『若年者』

将来の健康についての不安を尋ねたところ、「不安はない」または「どちらかといえば不安はない」と答えた人は25.1%に対し、「不安を感じている」または「どちらかといえば不安を感じている」は71.6%となっている。前回調査と比べると、将来の健康について何らかの不安を感じている人の割合は9.1ポイント減少している。

